

令和4年度（2022年度）第1回北海道総合保健医療協議会地域保健専門委員会
糖尿病対策小委員会書面審議の結果について

【保健福祉部健康安全局地域保健課】

1 委員長・副委員長の選任

令和4年度（2022年度）当委員会における委員長・副委員長については、事務局案のとおり全委員より承認いただき決定しましたのでご報告します。

区分	所属	職名	氏名	任期
委員長	旭川医科大学内科学講座	教授	奥村 利勝	令和5年 6月30日まで
副委員長	一般社団法人 北海道医師会	副会長	藤原 秀俊	

2 北海道医療計画 年次評価について

事務局より提案した年次評価への御意見等については、下記のとおり対応します。

委員名・意見等	対応
<p>【沖津委員】</p> <p>アウトカム指標（住民の健康状態）はコロナ禍で影響を受けていると感じられるが、そのような状況下でも最低横ばい状態まで回復できるよう道民へのさらなる特定健康診査の普及啓発が必要であると感じている。</p>	<p>糖尿病の発症予防・重症化予防のためには、特定健康診査の実施が重要であり、本道における特定健診受診率の低さは重要な課題と捉えております。イベントの開催やホームページ・SNSを活用した普及啓発と共に関係団体及び部内関係各課と連携し、さらなる普及啓発を進めます。</p>
<p>【齋藤委員】</p> <p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響を強く受けていると思われますので、クリティカルパス実施医療機関の多少の減少は致し方ないと思います。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症流行前への数値の回復、さらに、目標値への到達に向け、糖尿病連携手帳等を用いた地域連携クリティカルパスの普及や保健医療福祉圏域連携推進会議等を活用した連携体制の充実のため取り組みを進めます。</p>
<p>【寺本委員】</p> <p>妊娠糖尿病（GDM）は、妊娠中に発症する糖代謝異常ですが、GDM 既往女性のⅡ型糖尿病発症リスクは7.43倍との報告があり、またその出生児も将来糖尿病を発症しやすいことも知られており、このようなハイリスク者への啓発も必要だと思えます。</p>	<p>妊娠糖尿病既往女性及びその出生児を含めたハイリスク者への啓発につきましては、ホームページ・SNSを活用するなどして取り組んでいくとともに、委員の皆様のご意見をいただきながら検討をすすめていきます。</p>